文化財通信くまもと

第32号
平成26年3月
熊本県
教育委員会

遺跡発掘体験・見学会

レッツ　タイムスリップ！
～古（いにしえ）の熊本へ～

© 2010 熊本県くまモン

新南部遺跡群

熊本県教育庁教育総務局文化課では毎年、夏休み期間と11月（くまもと教育の日にちなんで）に発掘現場の体験活動と現場公開を実施しています。

平成25年度は阿蘇郡の幅・津留遺跡、熊本市東区の新南部遺跡群・吉原遺跡、熊本市北区の飛田遺跡群、熊本県文化財資料室を公開しました。

子供達は土器片や矢じりを見つけて、「やったー！こんなの見つけたよ。」と喜んでいました。また、資料室では勾玉づくりに挑戦。出来上がった作品を保護者や友達に見せ合ったあと、記念写真を撮りました。

出前講座

長洲の文化財に誇りを！

© 2010 熊本県くまモン

平成25年7月17日（水）に長洲町立六栄小学校で出前講座を行いました。当日は、6年生の50名の子供たちに、六栄小学校や長洲周辺の遺跡や北の崎遺跡について、スライドを見たり、実際に土器と触れたりしながら学習しました。

この日は盛り沢山の内容で、県立装飾古墳館の文化財保護主事が、勾玉づくりの体験教室も行いました。

子供達は、本物の土器に触れたり、自分の勾玉を作ったりして楽しい時間を過ごしました。

土器にふれる子供達

国指定史跡 大野窟古墳

所在地：八代郡氷川町

指定日：平成25年10月17日

大野窟古墳は、熊本県中央部の台地上に造られた6世紀後半の前方後円墳です。墳丘の長さは123 mもあり、これは古墳時代後期の九州で第2位の大きさです。大野窟古墳の調査では、前方部前面が少し突出したような古墳の形（剣菱型の前方後円墳）をしていることや、周溝のかわりにいくつかの土坑を掘っていること、なんらかの祭祀を行ったと思われるたくさんの須恵器が出土したことなど様々なことが明らかになりました。

また、埋葬施設である横穴式石室の天井の高さは6.5 mもあり、これは現状で日本一の高さです。埋葬施設の発掘調査は行っていないため詳しいことは分かりませんが、古墳の周辺からは新羅系の陶質土器や、阿蘇溶結凝灰岩製の石製表飾（石で作った装飾品）が出土しています。

今後は同じ氷川町に所在する野津古墳群とともに適切な保存を図りながら、地元に愛される文化財として活用していきます。

大野窟古墳

国指定史跡 八代城跡群 古麓城跡 麦島城跡 八代城跡

所在地：八代市

指定日：手続中

八代城跡群　古麓城跡　麦島城跡　八代城

八代城跡群は、３つの城跡とその関連遺跡からなる遺跡群です。城跡群を構成する３つの城跡は、南北朝・戦国期の古麓城跡、小西行長が築城した麦島城跡、加藤・細川藩政期の八代城跡です。

このほかにも関連遺跡として加藤氏が麦島城を改修する際に瓦を焼いた平山瓦窯跡や八代城代松井家の歴代墓所が残っています。これらの遺跡が築かれた時の八代は、薩摩街道と球磨川水運の結節点で、肥後の名港五港の1つである徳渕の港を有し、肥後及び九州の水陸交通の要衝でした。

このように八代の中世から近世にかけての地域権力と築城技術の移り変わりなどを一体として理解できる八代城跡群はとても貴重です。

八代城跡群は、平成８年に行われた麦島城跡の発掘調査がきっかけとなり国史跡指定に向けた取り組みが始まりました。麦島城跡の発掘調査から１８年という長い間、調査や遺跡の価値づけなど様々な取り組みを行ってきました。このような地道な取り組みが、今回の国史跡指定につながりました。

国指定史跡 豊後街道

所在地：阿蘇市車帰・的石・狩尾・坂梨ほか、産山村山鹿ほか

指定日：平成25年7月10日

二重峠

豊後街道は江戸時代の熊本藩の参勤交代道の一つです。

豊後国鶴崎（大分県大分市鶴崎）と肥後国熊本城下とを結ぶ街道で、熊本では大津往還、久住往還、阿蘇路などと呼ばれました。

今回指定の対象となったのは、阿蘇市と産山村の合計約2.7kmの範囲です。

なかでも、阿蘇市の二重峠より下る部分の石畳は約1kmにわたる壮大なもので、「岩坂村つくり」と刻まれた敷石も残されています。石畳の構築や補修を行った岩坂村の人々が担当場所を明示したものの可能性があります。産山村の弁天坂と境の松坂の石畳も合計約250 mにわたり良好に残されています。

また、阿蘇市的石には、藩主が参勤交代の時に休憩所として使用した御茶屋跡が残っており、庭園には阿蘇外輪山の湧水を基にした池泉が配されるなど、当時の様式が色濃く残されています。

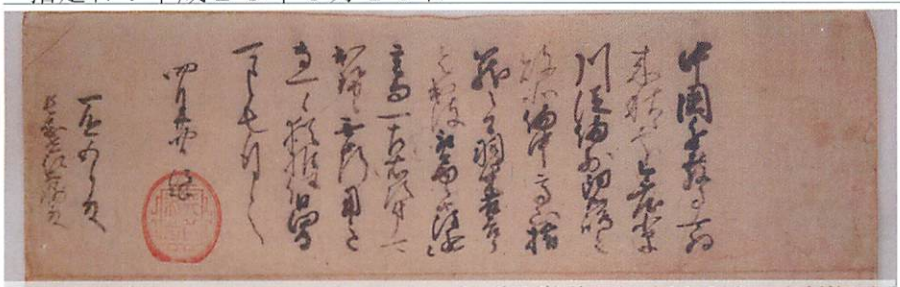
豊後街道は熊本藩の参勤交代道として歴史的役割を果たしたのみならず、九州を横断する街道として多くの人々にとっても重要な道として機能したのです。

国指定重要文化財（古文書）細川家文書（二百六十六通）附 文書箱四合

所在地：熊本市中央区黒髪２－４０－１国立大学法人熊本大学附属図書館

所有者：公益財団法人永青文庫

指定日：平成２５年６月１９日



写真）

織田信長の朱印状：本能寺の変の1ヶ月前に信長が幽斎にあてた手紙で生前最後の手紙

（公益財団法人永青文庫の提供）

室町幕府の将軍家をはじめ織田信長、豊臣秀吉、徳川家康と仕え、熊本藩の藩主として幕末まで続いた肥後細川家に伝来した古文書群の中で中世の時代のものです。

室町時代の典型的な武家文書や、安土桃山時代の信長、秀吉らの書状が数多く含まれており、特に、信長文書は質・量ともに群を抜いています。

歴史的な出来事である長篠の戦いや安土城の建築、本能寺の変、関ヶ原の合戦直後の状況を伝えるものも含まれ、当時の緊迫した情勢がうかがわれる史料として貴重なものです。

この細川家文書の調査研究を行った熊本大学の取り組みに、肥後銀行をはじめ県内企業からの寄附金が活用されています。

国指定重要無形民俗文化財　球磨神楽

所 在 地：人吉市、球磨郡錦町、球磨郡あさぎり町、球磨郡多良木町、球磨郡湯前町、球磨郡水上村、球磨郡相良村、球磨郡五木村、球磨郡山江村、球磨郡球磨村
保護団体：球磨神楽保存会
登 録 日：平成２５年３月１２日

10月8日の青井阿蘇神社例大祭の前夜祭を皮切りに約2ヶ月間にわたって球磨地域の神社の祭りで奉納される17演目からなる神楽です。室町時代、領主相良為続が雨乞い祈願のために青井阿蘇神社に奉納したという記録があり、500年以上の伝統をひいています。

御幣、剣などを手に持つ採物舞を主に、右に回った後で左に回り返す、軽快な足踏み、複数の舞手による演目では隊形を様々に変えて舞うなどの特徴があります。

神　楽

九州各地の他の神楽との関係や、民俗芸能の伝来、発展の過程を考える上で貴重なものです。

県指定重要文化財（工芸）紅糸威腹巻附鎧櫃

所 在 地：熊本市中央区二の丸　熊本県立美術館
所 有 者：公益財団法人永青文庫
指 定 日：平成２５年１１月１５日

肥後細川家初代の細川幽斎（藤孝、1534～1610）が使用したと伝えられる腹巻(注)形式の甲冑で、兜、広袖、籠手、胴、草摺、臑当、佩盾からなります。

いずれも黒漆を重ね塗りした無数の鉄片を紅色の糸で威し（縫いつけ）て作られ、端正な仕立てで色彩豊か、軽くて実戦的という桃山時代の甲冑の特徴が良く表れています。

幽斎が使用した甲冑は全国的にも極めて少なく、本県にとって貴重な工芸品といえます。

これは、平成21年度に約400万円をかけて修理が行われ公開が可能になりましたが、修理には肥後銀行をはじめ県内企業からの寄附金が活用されています。

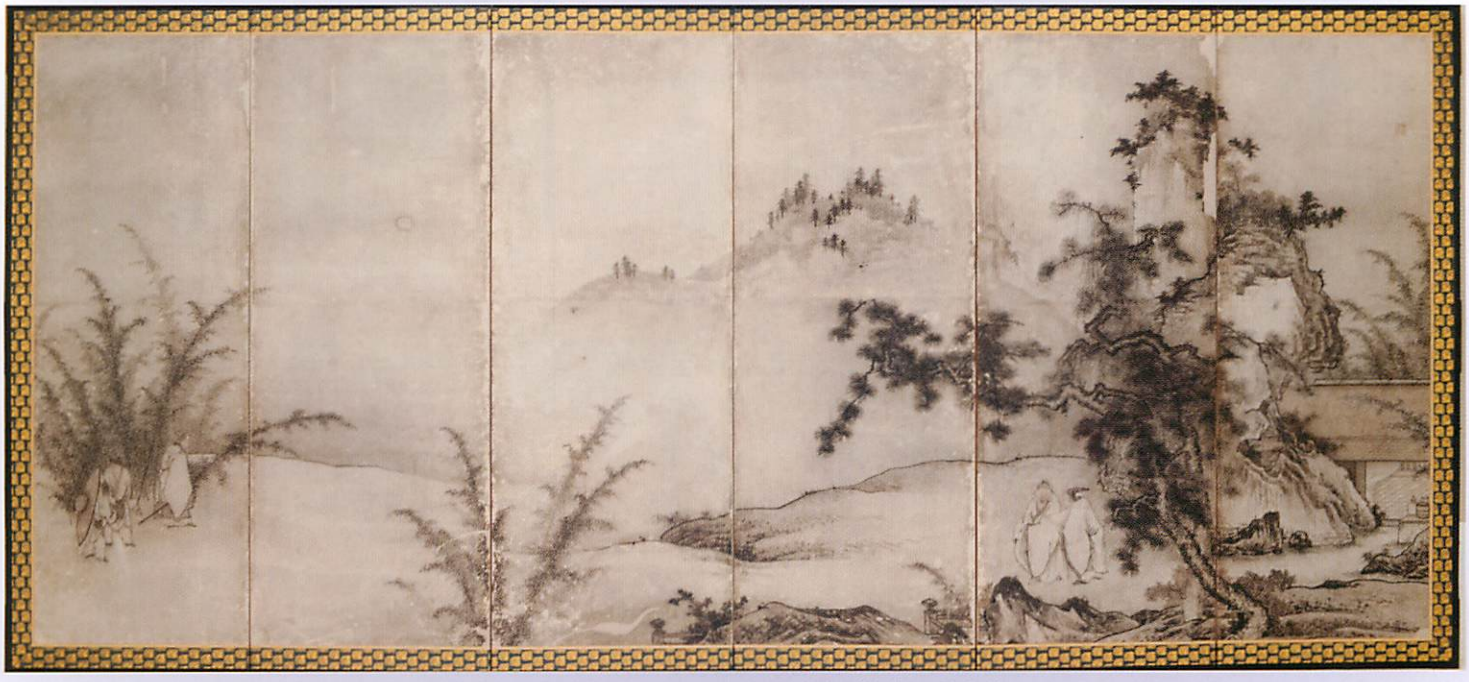
（注）腹巻・・鎌倉時代後期以来、下級武者が使用した胸からひざまでを防ぐ胴・草摺のみの簡単な作りの甲冑。後に重装化して兜や籠手などが付き、室町時代には武将も着用した。

（写真：公益財団法人永青文庫提供）

県指定重要文化財（絵画）竹林七賢図屏風

所 在 地：熊本市中央区二の丸　熊本県立美術館
所 有 者：公益財団法人永青文庫
指 定 日：平成２５年１１月１５日

（右隻：公益財団法人永青文庫の提供）



古代中国の故事を題材にした縦約 156cm、横約 365cm の水墨画の屏風です。

作者の雲谷等顔（1547～1618）は、肥前（現 佐賀県）生まれ。狩野派に学び、天正元年（1573）から広島城主毛利輝元に仕えた桃山時代の絵師で、雪舟の作品の模写を通じて確立した作風は、熊本藩の御用絵師矢野派に受け継がれています。

この作品は背後に山々を重ねて深みを出す、木や人の輪郭を細い線で描くなどの雪舟ゆかりの技法と地面の起伏や岩石を簡略化して描くなど晩年の技法がみられ、等顔の中期の作品の中でも代表作となる貴重なものです。

これは、平成 23・24 年度に約 1000 万円をかけて修理が行われ公開が可能になりましたが、修理には肥後銀行をはじめ県内企業からの寄附が活用されています。

（左隻：公益財団法人永青文庫の提供）

装飾古墳館の取り組み

関連市町村教育委員会、熊本県教育委員会文化課は、平成21年度から熊本県内の装飾古墳を対象とし、「熊本県内装飾古墳一斉公開」を行っています。平成25年度の公開は、平成25年10月26、27日及び、平成26年3月21、22日です。このうち秋の公開では、県内11か所で実施し、のべ1,614人の参加がありました。

装飾古墳館では、装飾古墳の一斉公開を決定するため、定期的に装飾古墳を巡り内部の環境調査を行っています。それは、石室内の温度の推移を根拠にして、公開日を定めるためです。

また、公開日当日には、入室者の推移と温度上昇を比較検討し、古墳内部の環境を損なわないように、一時的に上昇した温度を下げるなどの各種の対策を実施しています。

大村横穴群をはじめとして、大正10年3月3日に熊本県では最初に国の史跡に指定されるなど、装飾古墳には長い保護の歴史があります。こうした熊本県の特徴である文化財を活かした保存と活用に、館を挙げて取り組んでいます。

【お問い合わせ】
熊本県立装飾古墳館
〒 861-0561
熊本県山鹿市鹿央町岩原 3085
TEL 0968（36）2151
装飾古墳館ホームページ
http://www.kofunkan.pref.kumamoto.jp

史跡鞠智城跡の特別史跡指定・国営公園化を目指しています

鞠智城跡は、山鹿市と菊池市にかけて所在する古代山城で国史跡に指定されています。

昭和42年から始められた発掘調査は32次を数え、これまでに貴重な遺構や遺物が発見されました。「温故創生館」で調査成果を展示・解説しています。

熊本県では現在、特別史跡指定・国営公園化に向けた様々な取組みを山鹿市・菊池市とともに進めています。平成25年7月28日には東京国立博物館で、また9月7日には、大阪のドーンセンターにおいて、「古代山城の成立と鞠智城」というテーマでシンポジウムを開催し、多くの方々にご参加いただきました。

また、12月17日～1月13日には九州歴史資料館で「熊本の古代山城　鞠智城展」を開催し、鞠智城の周知に努めました。このほか「さきもりころう隊」が各地に出陣し、ころう君が鞠智城をＰＲしています。

【お問い合わせ】
熊本県立装飾古墳館分館　歴史公園鞠智城・温故創生館
〒 861 － 0425　熊本県山鹿市菊鹿町米原 443 － 1
TEL 0968(48)3178
鞠智城温故創生館ホームページ
http://www.kofunkan.pref.kumamoto.jp/kikuchijo/
さきもりころう隊オフィシャルサイト
http://cyber.pref.kumamoto.jp/korou-tai/

ころう君

鞠智城大阪シンポジウム

発掘！調査現場から

鉄の道具の宝庫　－幅・津留遺跡－

幅・津留遺跡の出土品は、文化庁が主催する「発掘された日本列島２０１３」で、東京都江戸東京博物館など全国５か所で展示されました。「この幅・津留遺跡を代表するものは何か」と聞かれたときに、真っ先に「鉄」と答えます。

もちろん、鉄というからには写真－１のような鉄でできた製品が豊富に出土するからです。

今回、ご紹介したいのは、これらの鉄でできた製品を作り出したのではないかと思われる遺構や遺物などです。

写真－１

さて、弥生時代には鉄の道具をどうやって作り出していたのでしょうか。

一般的には、大陸から鉄の板（壊れた鉄製品を含む）を持ってきて、ノミなどで切り落として道具を作り出したとされています。

この幅・津留遺跡の竪穴建物から鉄の道具を作り出していたのではないかと思われる遺構などが発見されました。

写真－２をご覧になってください。

竪穴の中央よりやや上部分に炭がたまっている炉とその周りに築かれた一段高くなった高まり、そしてその周囲には赤く変色した床が発見されました。

写真－２

このような設備がある遺構からは、共通して三角形の切り落としたと思われる鉄の破片（写真－３）や環状に配置された石組みが発見されます。これは、熱を加えある程度柔らかくなった状態で切り落として製品化していた施設ではないかと考えています。

他の建物からは、フイゴに使用したのではないかと思われる穴があいたラッパ状の土器の一部も発見されています。

このように出土品と建物の施設のつくりなどを細かく見ることで、どのような用途に建物が使用されていたのか総合的に検討しているところです。

写真－３

土偶　～飛田遺跡群～

熊本市北区四方寄町にある飛田遺跡群からは土偶（縄文時代後期：今から約 3,000 年前）が出土しています。

人間の形に作られた土製品で、成人の女性を表現しています。胸や腹・腰などを大きくデフォルメ（誇張）したものが多いようです。

なぜ土偶が作られたのかについては、子どもを産み子孫を増やす女性像であることから、自然の恵みの増加を祈った女神像であるという説。他には病気や痛みを治してくれる身代わり人形であるという説などがあります。

足の指・ふくらはぎ・ひざ・かかとなども作られている。

弥生時代のこどものお墓　～吉原遺跡～

吉原遺跡は、熊本市東区吉原町にある遺跡で、調査区のすぐ北には白川が流れ、東には阿蘇の外輪山の山々が見渡せます。

白川河川激甚災害対策特別緊急事業のため平成 25 年8月から平成 26 年 3 月まで調査面積は約 6,600㎡で発掘調査を行いました。

主に弥生時代の住居やお墓の跡が確認できました。お墓の跡からは、甕棺という土器でできた当時の棺が出土しました。

約1m程の隣り合った2基の甕棺の中には、それぞれに 3 ～ 4 歳と5～6歳くらいの弥生時代の子どもと思われる人骨の一部が入っていました。

弥生時代の人骨が残ることはとても珍しく、貴重な発見となりました。

隣り合う 2 基の甕棺

弥生時代の住宅事情　～新南部遺跡群（県6次調査区）～

新南部遺跡群（県6次調査区）は、熊本市東区新南部5丁目にある遺跡で、白川河川激甚災害対策特別緊急事業のため平成 25 年 7 月から平成 26 年 3 月まで発掘調査を行いました。

調査面積は約 5,000㎡で、弥生時代・奈良時代・平安時代の竪穴建物、土坑が多数、確認されました。

ここでは、弥生時代について紹介します。

本遺跡は、白川の真横に立地することもあり、水には困ることはないと思われ、井戸は見つかっていません。現在まで、熊本県内で確認された弥生時代の井戸は、熊本市西区二本木遺跡群などごくわずかです。

確認された竪穴建物は、弥生時代中期から後期にかけて、複数の時期のものが密集して重なっていました。場所を変えることなく、再び建てる理由はこの場所が住みやすい場所であったからではないでしょうか。時として氾濫することもあった河川に立ち向かう古代の人々の姿の一端を知ることができました。

弥生時代中期後半の竪穴建物

弥生時代のお墓発見 －新南部遺跡群（県7次）－

新南部遺跡群（県7次）は、熊本市東区新南部1丁目にある遺跡で、白川河川激甚災害対策特別緊急事業のため平成25年8月から発掘調査を行っています。

調査面積は、約700㎡で、弥生時代中期（今から約2,200年前の遺物や遺構が確認されました。弥生時代の主な遺構は甕棺墓7基、木棺墓3基、区画溝、遺物は、土器や磨製石鏃などが検出されました。

中でも、標石のある甕棺が2基見つかり、甕棺墓の上部構造まで非常に状態良く残っており、大変めずらしいものです。標石とは墓であることを示す目印みたいなものです。

甕棺墓

当時の埋葬形態を知るうえでとても貴重だと考えています。

謎をといて報告書をつくる

ふるい遺跡の発掘調査が終わると、あたらしい道や建物がつくられます。

あたらしい生活のために古い遺跡はこわされますが、発掘調査でわかったことを報告書にまとめ、みんなが調べることができるようにしています。

土器をつなげる作業

今年、私たちが手がけた3つの遺跡を紹介しましょう。

頭地下手遺跡は今から4,000年前の五木村にあった山の村、新南部遺跡は1,500年前に熊本市にあった里の村、花岡木崎遺跡は1,300年前に芦北町にあった海の村です。

遺跡の古さ、あった場所、出てくる物も、みんな違います。でも、いっしょの部分もあることに気づきました。

掘りだされた土器をつなげるとき、発泡スチロールでできたカップうどんの容器をつかうと、上手に形をつくれます。このように上手に形をつくる容器は、ミルク缶、紙皿、紙コップなど、まだまだあります。頭地下手遺跡ではミルク缶を、花岡木崎遺跡では紙皿をよく使いました。

4,000年前、1,500年前、1,300年前からいろいろな形と大きさの土器があるのですね。

土器の形と大きさは、こまかなところでは違いがでてくるので「なぜだろう？」と考えてしまいます。

遺跡の謎は、まだまだあります。遺跡をたずね、そして報告書を調べて、この謎を解決してくれる探偵がいるといいな、と話しながら報告書をつくっています。

第５回　熊本県発掘調査速報会
「熊　本　ば　！　発　掘　す　る」

【プレゼンテーション】

発掘調査、名勝地の調査、温古創生館のホットなニュースを報告しました。

【ポスターセッション】

発掘調査で出土したものを展示し、遺跡の紹介等を行いました。

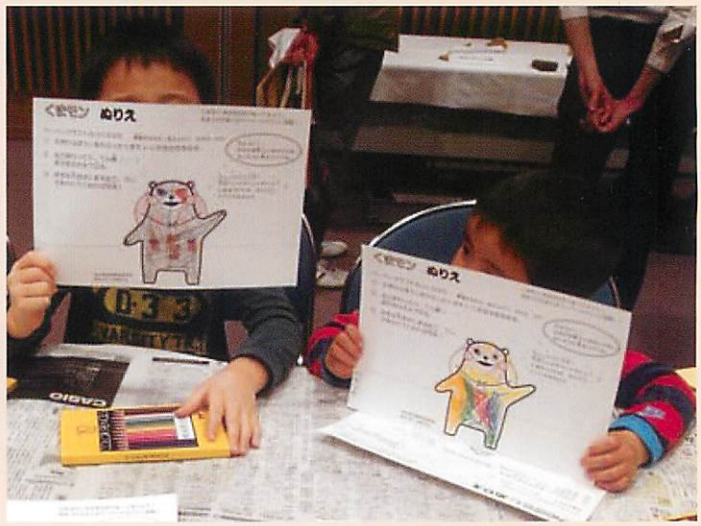
子供達をはじめ多くの県民の皆さんに本や雑誌ではなく、発掘調査で発見された本物の土器や石器などに直接触れて、自分が住んでいる熊本の歴史に関心をもってもらい、身近にある本物の文化財のすばらしさや感動を味わってもらうことを目的として速報会を開催しています。

今回は、プレゼンテーションやポスターセッションで発掘調査や文化財調査についての報告の他に、実際に土器に触れることができる体験活動等も実施しました。

中でも土器接合体験では、時間いっぱい真剣に取り組む親子の姿がありました。約２４０人の参加があり、「第1回から参加しています。毎年楽しみにしています」という感想もありました。

平成 25 年度第 6 回目となる速報会は、平成 26 年 2 月 23 日に実施しました。熊本県文化課では毎年この速報会を実施していますので、まだ参加されてない方は一度参加してみませんか。考古学のファンになるあるいは熊本の歴史に興味をもつきっかけになるかもしれません。

【土器接合体験】



【ぬりえ】

熊本県文化財資料室紹介

【展示・体験学習棟】

熊本県文化財資料室は、埋蔵文化財発掘調査の出土遺物の収蔵・管理を行っています。展示・体験学習棟もあり、一般公開および文化財普及活動も実施しています。

公開は月曜～金曜（祝祭日を除く）、午前9時～午後5時までです。ぜひ、見学にいらしてください。

【展示室】

熊本県文化財資料室
〒861-4215　熊本県熊本市南区城南町沈目1667番地
TEL：0964-28-4933　　Fax：0964-28-7798
E-mail：shiryoushitu@pref.kumamoto.lg.jp

熊本県文化財資料室展示・体験教室

熊本古代のアクセサリー展

熊本県文化財資料室では、『熊本古代のアクセサリー展』を平成25年7月から11月まで実施し、現在『縄文土器展』として熊本県で出土した縄文土器を展示しています。

また、学校の夏休みと冬休み期間に勾玉作り体験教室と土器焼き体験教室を実施しました。

勾玉作りの際、遠くは埼玉県にお住まいの方も参加していただきました。保護者と子どもが仕上がりを相談しながら作成している様子があちこちで見られました。

土器焼では、輪積みで粘土を積み上げ、野焼で焼きました。なんとか一日で土器作りができました。

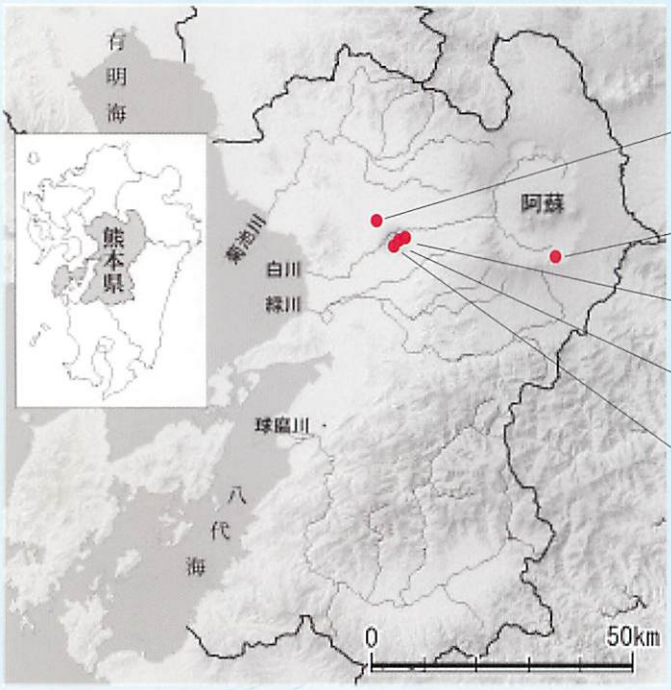
縄文土器展

勾玉作り体験教室

土器作り体験教室

平成25年度　県文化課発掘調査遺跡一覧

	遺　跡　名	所　在　地	主な時代	主な遺構・遺物	調査期間
1	飛田遺跡群	熊本市北区四方寄町	縄文・弥生	土偶、縄文土器、竪穴建物	H25.5～H26.3
2	幅・津留遺跡	阿蘇郡高森町	弥生・古代	竪穴建物、倉庫跡、区画溝、墓、標柱石、弥生土器、鉄鏃、鉄斧など	H25.7～H26.2
3	吉原遺跡	熊本市東区吉原	弥生	甕棺、竪穴建物、弥生土器、石鏃など	H25.7～H26.3
4	新南部遺跡群（6次）	熊本市東区新南部	弥生・古代	竪穴建物	H25.7～H26.3
5	新南部遺跡群（7次）	熊本市東区新南部	弥生	甕棺墓群、木棺墓、溝など	H25.8～H26.3



1 飛田遺跡群

2 幅・津留遺跡

3 吉原遺跡

4 新南部遺跡群（第6次調査）

5 新南部遺跡群（第7次調査）

考古資料学習キット

考古資料学習セット

県文化課では、小･中学校の歴史学習の補助教材として、県内遺跡出土の主要な土器や石器を詰め合わせた『考古資料学習キット』を作成し、貸出しをしています。

本物の遺物に直接手でふれ、原始・古代の人々の知恵や工夫の跡を確かめてください。

【問合せ先】

熊本県教育庁教育総務局文化課調査係

096-333-2706(2707)

熊本県文化財資料室　0964-28-4933

文化財通信くまもと第32号 平成26年3月31日
発行：熊本県教育委員会
TEL　096(333)2704　FAX 096(384)7200
編集：熊本県文化財資料室
TEL 0964(28)4933　FAX 0964(28)7798
印刷：株式会社キャップ

発行者：熊本県
所　属：熊本県教育庁教育総務局文化課
発行年度：平成25年度